

環境変化を新たな挑戦の機会に

日本代協 第13回日本代協コンベンションを開催



小田島会長

冒頭で挨拶した小田島会長は、代理店を取り巻く内外の状況について「私たちが取り巻く環境は、人口減少や自然災害の激甚化と顕著化など、短期間では到底解決できない問題と、昨今の保険会社不祥事問題からの信頼回復、そして顧客本位の業務運営の高度化、業務品質のさらなる向上など喫緊の課題が重なり合っている」と述べたうえで、「損害保険業界は考え方、経営スタイルの大変革期を迎えている」と指摘。そのうえで「この環境変化を新たな挑戦の機会とし、自社のお客様が求める安心を私たちの仕事を通して、信用・信頼

「今後、あらためて何が損害保険における顧客本位の業務運営なのかという視点に立ち返り、顧客

一刻も早く信頼を取り戻す 顧客ニーズに応えた 質の高いサービス提供通じ

日本代協(小田島綾子会長)は11月15日、東京・港区のグランドニッコー東京台場で第13回日本代協コンベンションを開催した。コンベンションは小田島会長の挨拶で始まり、次いで来賓として金融庁監督局の下井善博保険課長、損害協会の大知久一専務理事が挨拶。その後、式典や基調講演、パネルディスカッションなどが行われた。



下井保険課長

とも形に形にすること、保険が果たす役割を社会に広くお知らせすることに繋がるはずだ」との思いを示した。

来賓挨拶した金融庁の下井保険課長は「保険は社会に欠くことのできな

何が顧客本位の業務運営なのかに立ち返って

ニーズに的確に答えた質の高い保険サービスの提供等を通じて、損害保険業界として一刻も早く社会からの信頼を取り戻していくことが重要だ」として、信頼回復への取組みを求めた。

損害協会の大会専務理事は、コンベンションの意義について言及。「私たちは今、時代の転換期にある。つい先日も、我が国の出生数が初めて70万人を割り込む見通しが示されたように、人口減少や超高齢化が進み、自

の技術の進展など、日々環境が変化している。また、昨今の不祥事をふまえた損害業界も、新しいルールをこれから執行していくかなければいけない。このような事象は損害代理店の皆様にとって

次いで功労者表彰が行われ、長年にわたり代協の発展に取り組んできた役員に表彰が贈られた。受賞者を代表して挨拶した長崎県代協の泉健彦氏は「80歳になつた私を感じているのは、人は現



功労者表彰のようす

という時代だ。代理店のなかには代協の役員任期を終えるとともに代協から離れてしまう人がいる。代協活動を終えたとしても、いつまでも現役であり続け、代協会員とともに社会のためにがんばってほしい」という意識をもってほしい」と会場に呼びかけ、第一部の式典を終えた。

第三部はパネルディスカッションが行われ、株式会社ライフステーションの永野勲一代表(三重県代協)と株式会社リースの長岡誠治代表(東京代協)が「シン代理店価値づくり」をテーマに、自社の取組みや特徴などを紹介しつつ今後の代理店のありべき方向性などについて考察した。

一方のリース社が注力しているのは若手の採用。若い社員の採用のために専任スタッフが採用動画を制作するなどの工夫を凝らした取組みを進めているという。長岡氏は「社員が自ら何をしたいのかを社長自身が知り、かなえていくというボトムアップの社風が社員の定着につながっている」と話した。

第二部の基調講演では、左官職人の原田宗亮氏(有限会社原田左官工業所代表取締役)が「なぜ左官屋で若者と女性が活躍できるのか」をテーマに講演。建物の壁や床などを、こてを使って塗り上げる左官業の現状について原田氏は、建築手法の変化により左官が活躍するようになったことに加えて左官職人の高齢化が進み、職人不足の負のサイクルに陥っていると説明。こうした課題を解決するために同社では、職人技術をヒトオで学ぶといった職人育成システムを確立することで左官業の魅力や面白さを伝えることができるとしている。結果的に若者や女性の採用につながったという。原田氏は「当社の取り組みを皆さんの頭の中で自社の事業に変換して参

育成システム確立で課題解決 第二部で原田氏が基調講演



(損保版)

第1~4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区朝本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)

©新日本保険新聞社 2024

